



2013年1月入職

むらたちえみ
村田知恵美

自分を磨いていくために

自分のコミュニケーションスキルを体得中

もともと、私は自分が思っていることを相手に伝えることが苦手です。それを補うために、身振り手振りを交えながら、全身でメッセージを伝えていました。以前受けた適性テストでも「受身的で、最高のリスナー」というデータが出て、まさにその通りだなんて。でも、研修の中で指摘されたのが、そればかりではいけないこと。ボディランゲージは、見方によっては落ち着きがないように受け取られる可能性もあります。そして受け身ばかりでは相手には伝わらない。自分の長所ではあるものの、いつもそれを使うのではなく、状況に応じて使い分けることができれば、より長所が際立つようになると思いました。

だから今は、自分の感情を優先させるのをグッと堪え、まずは患者さまの心を読み取ることを意識しています。具体的にどういう気持ちを抱えているのか、今何を必要としているのか。つつい身振り手振りが出てしまうこともあります。以前と比べれば、頻度は減ってきたように思います。自分のコミュニケーションスキルを少しずつ体得出来ているのは、研修があったからこそ。本当にいい機会だったと思います。実は1年前にも上長から思いやりエキスパートに推薦されていたのですが、日常業務と並行させるのは難しいという理由から断っていたんです。でも、この1年間でスタッフの育成に携わり、誰かの模範になることに少しだけ自信が芽生えました。選ばれた当初は不安やプレッシャーもありましたが、今は自分を磨いていけるという期待の方が大きいですね。



看護の根底には“愛”がある



善仁会の思いやり行動は、私の中では“愛”だと解釈しています。看護は、自分が嫌だと思ふ相手には提供出来ません。だからなるべく相手のことを好きになり、目を見て笑い合える関係性を築いていきたいと常日頃から思っています。以前、一度退院された患者さまが再び来院されたときに、「みんなに会いたくて帰ってきたのよ」という言葉をかけて

いただきました。私が在籍しているクリニックは連帯感があり、みんなが患者さまのことを好きになろうとしている。だからこそ、こういった言葉をいただけたのだと思っています。これからも個人として、そしてクリニック全体として“愛ある看護”を提供していきたいですね。

患者さまに
愛のある看護を提供し
会いたくなる看護師を目指します
村田知恵美